

9月全学連大会へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2016年8月3日
No.393

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/



7/31革共同政治集会うち抜く!!

斎藤委員長の決意表明!

私たちは、京大第2波ストライキー全国大学反戦ストライキに挑戦します。これを実現するための最大の焦点として、京大4学生への「無期停学」処分撤回へ全力を尽くします!

いよいよ改憲(つまり国家のあり方)をめぐる歴史的決戦の時がきました。参院選で改憲勢力は2/3議席を占め、改憲攻防は大きな分岐点を迎えました。しかし、その実態は大きな矛盾をはらんでいます。「大勝」したはずの自民党の得票数は、有権者全体では2割未満です。福島・沖縄では現職大臣が落選しました。世論調査では、改憲反対の声は選挙前後で変わらず過半数です。そして参院選投票率は戦後4番目の低さ。つまり今回の選挙での「2/3」という実態は、単に制度上議席が埋まったにすぎません。「与党も野党も支持されなかった」ーこれが参院選の紛れもない真実です。

この中で「新しい労働者の政党」を掲げ、鈴木たつおさんが16187票取りました。2年半前の東京都知事選と比較すれば、獲得票数は30%近く拡大しています。マスコミの徹底的な無視、「野党共闘」、…、この重圧を突き破ってかちとられた16187という数は、まさしく「決起」です。

いま私たちは、歴史的一步を踏み出しています。京大攻防は、私たち自身の闘いが引き寄せた勝利です。昨年



保国会闘争があり、戦争法制が強行採決された直後に日本共産党が「国民連合政府」構想をうち出し、「野党共闘」と言われ始めました。日本中の大学で「市民派」「リベラル」教授たちが講演会を開き、あの国会闘争の高揚を自分たちの成果であるかのように篡奪していきました。「日本で最もリベラル」とうそぶく法政大は、武田雄飛丸君への「無期停学」処分を継続しています。京大当局は、反戦ストライキで現場から反撃にたった京大生を、戦後初めて「違法占拠だ」と刑事告訴しました。こうして自分たちの本性をさらけ出してきました。これは、私たちの闘いがなければ本来起こらなかったことです。彼らのふざけた実態を僕ら自身の闘いが暴露したからこそ、こういうことが起きています。まさしく、私たち自身が情勢を動かしています。

よく既成政党は言います。「フランスやドイツには良い制度や法律があつて、日本でもそれを導入しよう」。しかしまさしく今、フランスがどうなっているか? 「非常事態宣言」下で労働法制改悪に反対してゼネスト・バリストをやって、約2000人が逮捕されています。それでも闘いは続いています。これを今の野党ができるんですか? 闘いがあつて制度がかちとられてきたはずなのに、既成野党は闘いの「おいしいところ」だけかすめ取って、その「権威」でメシを食っていく。海外の仲間の思いや闘いを、自分たちの食べ物にする

野党のあり方、そういう「国民の党」とか言っている連中のあり方…。私たちはこうやって物事がごまかされることに
対し、「新しい労働者の政党をつくろう！」と参院選を闘い、
多くの人たちが支持してくれました。新聞で偉そうに評論
する奴らではなく、評論する余裕すらない現場の労働者が
支持してくれたからこそ、私たちの闘いは続いています。

法大闘争だってそうです。2006年3月から大量逮捕が始
まり、それまでの法大のあり方や既存の「文化」は砂上の樓
閣のように消え去りました。当時私は文化連盟委員長とし
て、この状況を変えるために全学連とともに闘いを始める
ことを決意しました。闘わなくちゃいけない、理不尽に向
き合わなくちゃいけない、そうやって僕らは法大闘争を継
続してきたからこそ、それに感動する仲間たちが日本中に
たくさんいて、だから今僕らはストライキを訴えることが
できる。逮捕を覚悟して闘うことができる。世界中の労働
者の闘いに応えることができる。ここに、民主労総のよう
な世界で最も激しく闘う労働組合が、僕らを手を取り合う
仲間を選んでくれた一つの根拠があります。

必ず今の日本の状況をひっくり返すことができます。参
院選でもそうでしたが、多くの若者の反応。安倍政権の政
策は支持するが、こと労働問題やそれをストライキで変え
ようということについては私たちを支持し、鈴木たつおさ
んに投票する、こういう若者がたくさんいました。私自身
も、かつては現政権のような方向性を支持していましたが、
法大の現実立ち向かい、体を張った時に私たちのそばに
全学連がいて、「労働者が社会を動かしている」ーこの単
純な事実、しかしそれを言う人がいないと気づかない事
実に突き当たった時、私は別の道を歩み始めました。

「資本主義ー新自由主義の中でどう生きていくか」「自分
たちが明日生きていくために何をしなければならないか」「誰
に守ってもらうのか」「どういうふうに守りあうのか」ーそ
ういうことをめぐって単純に右や左だけのイデオロギーで
は整理できないことが、たくさん私たちの目の前で起きて
きます。しかし、「この社会を動かしているのは労働者だ」、
これは極めて単純で最も大事な事実です。このことに向き
合うからこそ、僕らはすべての人を団結させることができ
る。私たちだけしかやっていない闘いがたくさんあります。

この闘いを私たちだけのものではなく、すべての人の闘い
に高めていく。全学連はストライキに挑戦する中で、4学
生「無期停学」処分撤回に挑戦する中で、大学人の欺瞞、「大
学ストは違法で逮捕すべき」と言い放った共産党京都府委員
長のような連中すべてを粉砕する闘いを開始していきます。
本気で安倍政権に怒る人たちを結集させ、すべての力でプ
ロレタリア革命を、全人民の革命をともに切り開こう！

京大生の集会カンパアピール!

11月の日韓共同国際連帯闘争と世界革命に向かったの圧
倒的なカンパを、ぜひよろしくお願ひします!

京大で私を含む4学生に「無期停学」というとんでもない
処分が下されています。これと断固闘いたい。「構内立ち入
り禁止、単位履修禁止、大学施設は使用不可、学費だけは
払え、大学に頭を下げたら処分撤回を考える」という処分で
す。これは4人だけでなく、全国学生に「反戦バリストをや
ったら処分するぞ」という見せしめで支配する攻撃です。

処分理由の「大学の秩序を乱した」とは何か? 「秩序」とは
何か? キャンパスで政治討論することがタブーとされてい
る。大学が煽る「グローバル教育」で、バングラデシュ・ダ
ッカ事件のように殺されていく。こういうものでしかない。

こんな「大学の秩序」なんて認められないし、むしろ粉砕
されるべきだとバリケードを組みました。それを処分して
いる。こんなものは粉砕しかないし、すでに半分以上こん
な処分は粉砕されています。そもそも大学当局は、3月に
刑事告訴した。これを完全粉砕した。それに追い詰められ
て処分を行ったわけですが、私たち4学生はまったく折れ
ていません。断固としてこれをぶち破り、第2波バリスト
をやった時に世界革命への道は切り開かれます。

「立ち入り禁止」の学内にどんどん入り込み、職員20~30
人に取り囲まれてビデオ撮影もされていますが、それをガ
ンガン追及して、そこに多くの学生が集まってきて討論と
結合が始まっている。「自分の名前を出して反対してもいい」
という教授・学生がドンドン出てきている。留学生も決起し
ている。このうねりを全国へと拡大し、国際連帯とゼネス
トを京大からつくり上げます。10月3日の後期開講日には
キャンパス大行動を計画しています。ともに闘いましょう!

今こそストライキと国際連帯で改憲阻止の大運動を~国益と排外に憲法は屈するのか~

改憲阻止 8・14大集会

8月14日(日) 正午開場 午後1時開会

ニッショーホール(港区虎ノ門2-9-16 日本消防会館2F)

- 記念講演 鈴木達夫弁護士 「改憲と戦争に絶対反対」
- 特別報告 民主労総ソウル地域本部
- 呼びかけ人から 西川重則さん(平和遺族会全国連絡会代表)
- コント 松元ヒロ 「われら99% > 国会3分の2」

共催 許すな改憲! 大行動/8・15労働者・市民のつどい実行委員会

